

中小企業景況調査報告書

2025年4～6月期実績
2025年7～9月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。
調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

- (1) 調査対象時期等
①調査対象時期：2025年4～6月期の実績及び2025年7～9月期見通し
②調査期間：2025年5月21日～6月5日 ※調査時点は2025年6月1日
- (2) 調査方法
①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。
- (3) 調査対象商工会
①人口 ～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別
枝幸町、安平町、鹿追町、本別町、弟子屈町
②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町
③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業 種	調査企業数	回答企業数	回答率	業 種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	48	45	93.8%	小売業	86	85	98.8%
建設業	51	50	98.0%	サービス業	115	107	93.0%
				合 計	300	287	95.7%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

- (5) D I =ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？
前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。
例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は50-20=(+)30となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況（前年同期比、前期比の推移） ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前 期 比					
	今期	来期 見込	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	今期	来期 見込
製造業	▲ 28.9	▲ 26.7	▲ 21.3	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.6	▲ 20.0
建設業	▲ 20.0	▲ 18.0	▲ 16.0	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 8.0	▲ 32.0
小売業	▲ 25.6	▲ 22.9	▲ 34.2	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 16.9	▲ 25.3
サービス業	▲ 26.4	▲ 30.5	▲ 32.7	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 23.6	▲ 16.1

3. 北海道内商工会地域の状況

製 造 業		主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）						
項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 7-9	R6. 10-12	R7. 1-3	今期	来期見込
業 況	好 転	6.7	4.4	8.9	4.5	0.0	6.7	6.7
	不 変	57.7	64.5	77.8	63.7	59.5	60.0	66.6
	悪 化	35.6	31.1	13.3	31.8	40.5	33.3	26.7
	D・I	▲ 28.9	▲ 26.7	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 40.5	▲ 26.6	▲ 20.0
売上(加工)額	増 加	13.3	17.8	28.9	13.6	7.1	37.8	
	不 変	44.5	48.9	51.1	45.5	35.8	33.3	
	減 少	42.2	33.3	20.0	40.9	57.1	28.9	
	D・I	▲ 28.9	▲ 15.5	8.9	▲ 27.3	▲ 50.0	8.9	
資金繰り	好 転	4.5	6.8	2.3	2.3	2.4	2.3	
	不 変	75.0	79.6	84.1	81.4	80.5	81.8	
	悪 化	20.5	13.6	13.6	16.3	17.1	15.9	
	D・I	▲ 16.0	▲ 6.8	▲ 11.3	▲ 14.0	▲ 14.7	▲ 13.6	
原材料仕入単価	上 昇	68.2	61.4					
	不 変	29.5	38.6					
	低 下	2.3	0.0					
	D・I	65.9	61.4					
採算(経常利益)	好 転	11.1	13.3					
	不 変	48.9	62.3					
	悪 化	40.0	24.4					
	D・I	▲ 28.9	▲ 11.1					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

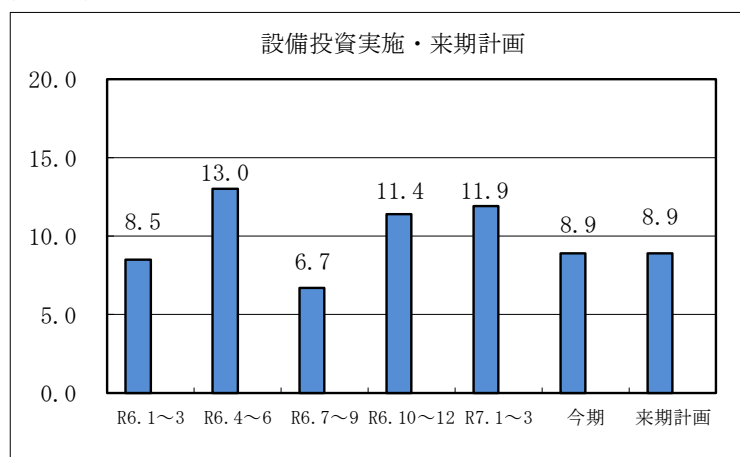
回答45事業所の内、4事業所(8.9%)が実施。

●生産設備=3事業所、●車両・運搬具、付帯施設=各1事業所

【来期計画内容】

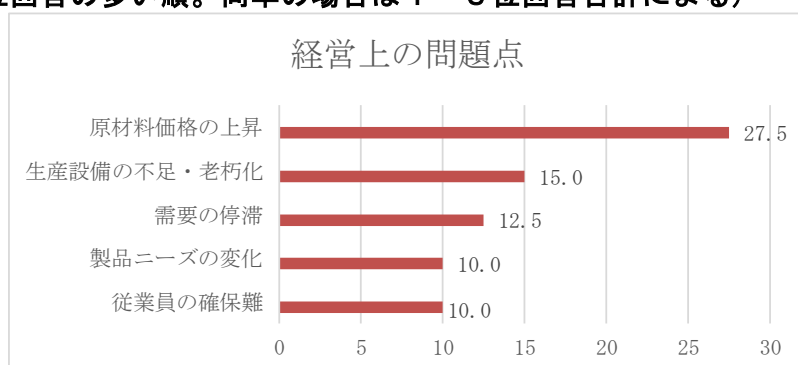
回答45事業所の内、来期に4事業所(8.9%)が計画。

●生産設備=3事業所、●OA機器=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様1位だった「原材料価格の上昇」で、6.4ポイント上昇している。2位は、前回3位だった「生産設備の不足・老朽化」で、1.8ポイント増加している。3位は、前回1位だった「需要の停滞」で、8.6ポイント減少している。4位は、同率で「製品ニーズの変化」と「従業員の確保難」で、「製品ニーズの変化」は、3.2ポイント減少しており、「従業員の確保難」は、4.7ポイント増加している。



建設業		主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）						
項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 7-9	R6. 10-12	R7. 1-3	今期	来期見込
業 況	好 転	4.0	8.0	13.7	2.0	0.0	8.0	0.0
	不 変	72.0	66.0	68.7	80.4	75.0	76.0	68.0
	悪 化	24.0	26.0	17.6	17.6	25.0	16.0	32.0
	D・I	▲ 20.0	▲ 18.0	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 25.0	▲ 8.0	▲ 32.0
完成工事 (請負工 事) 額	増 加	16.0	8.0	33.3	15.7	8.3	28.0	
	不 変	60.0	58.0	54.9	62.7	58.4	44.0	
	減 少	24.0	34.0	11.8	21.6	33.3	28.0	
	D・I	▲ 8.0	▲ 26.0	21.5	▲ 5.9	▲ 25.0	0.0	
資金繰り	好 転	0.0	2.0	8.0	2.0	0.0	4.0	
	不 変	82.0	80.0	84.0	86.0	85.1	76.0	
	悪 化	18.0	18.0	8.0	12.0	14.9	20.0	
	D・I	▲ 18.0	▲ 16.0	0.0	▲ 10.0	▲ 14.9	▲ 16.0	
材 料 仕入単価	上 昇	80.0	62.0					
	不 変	20.0	36.0					
	低 下	0.0	2.0					
	D・I	80.0	60.0					
採算(経 常利益)	好 転	8.0	6.0					
	不 変	64.0	64.0					
	悪 化	28.0	30.0					
	D・I	▲ 20.0	▲ 24.0					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

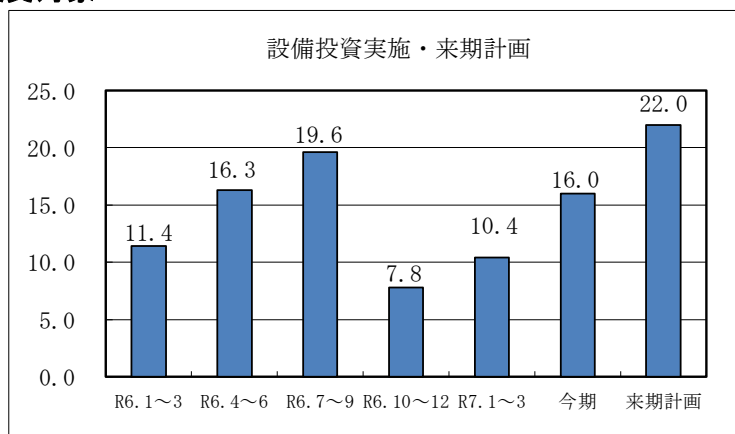
回答50事業所の内、8事業所(16.0%)が実施。

●車両・運搬具＝4事業所、●建設機械＝3事業所、●OA機器＝2事業所、●土地、その他＝各1事業所

【来期計画内容】

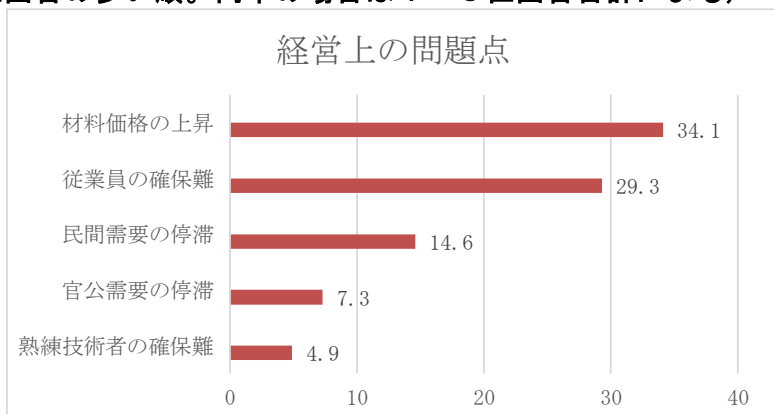
回答50事業所の内、来期は11事業所(22.0%)が計画。

●建設機械、OA機器＝各5事業所、●車両・運搬具＝3事業者



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様の「材料価格の上昇」で4.1ポイント減少した。2位は前回3位だった「従業員の確保難」で、前回より14.3ポイント増加した。3位は前回2位だった「民間需要の停滞」で2.9ポイント減少した。4位は前回同様の、「官公需要の停滞」で、前回より2.7ポイント減少した。5位は前回4位であった、「熟練技術者の確保難」で、前回より5.1ポイント減少した。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 7-9	R6. 10-12	R7. 1-3	今期	来期見込
業 況	好 転	8.5	9.6	6.0	2.3	3.6	9.6	8.4
	不 変	57.4	57.9	61.5	66.3	51.8	63.9	57.9
	悪 化	34.1	32.5	32.5	31.4	44.6	26.5	33.7
	D・I	▲ 25.6	▲ 22.9	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 41.0	▲ 16.9	▲ 25.3
売上額	増 加	17.6	17.6	25.9	17.4	16.9	27.1	
	不 変	47.1	45.9	43.5	50.0	37.3	34.1	
	減 少	35.3	36.5	30.6	32.6	45.8	38.8	
	D・I	▲ 17.7	▲ 18.9	▲ 4.7	▲ 15.2	▲ 28.9	▲ 11.7	
資金繰り	好 転	7.1	8.2	7.2	1.2	3.7	4.7	
	不 変	70.5	69.4	73.5	80.9	65.8	75.3	
	悪 化	22.4	22.4	19.3	17.9	30.5	20.0	
	D・I	▲ 15.3	▲ 14.2	▲ 12.1	▲ 16.7	▲ 26.8	▲ 15.3	
商 品 仕入単価	上 昇	66.7	57.1					
	不 変	29.7	36.9					
	低 下	3.6	6.0					
	D・I	63.1	51.1					
採算(経 常利益)	好 転	8.4	7.2					
	不 変	54.3	61.5					
	悪 化	37.3	31.3					
	D・I	▲ 28.9	▲ 24.1					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

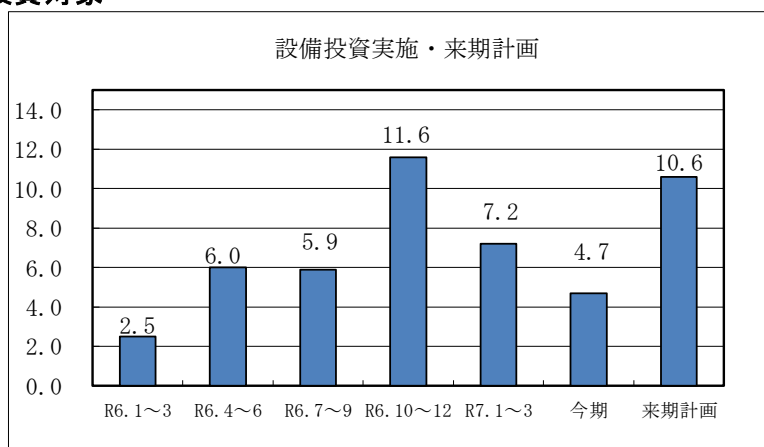
回答85事業所の内4事業所
(4.7%)が実施。

●販売設備=2事業所、●店舗、
OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

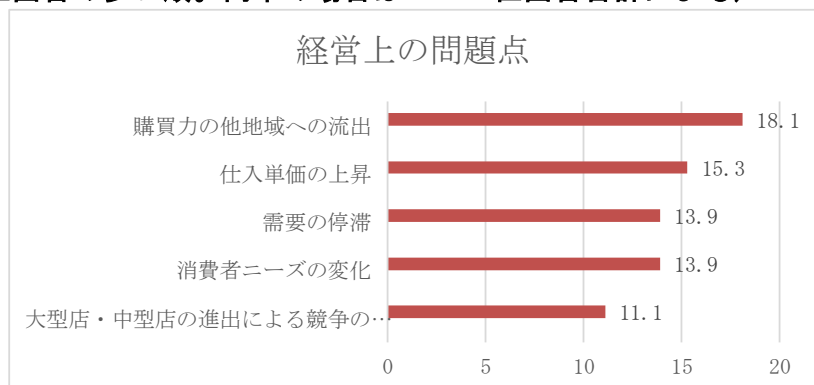
回答85事業所の内、来期は9事
業所(10.6%)が計画。

●販売設備=4事業者、●店舗=3
事業者、●付帯施設=2事業者、
●土地、車両・運搬具、OA機器、
その他=各1事業者



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様、「購買力の他地域への流出」で、9.5ポイント減少した。2位は、前回1位だった「仕入れ単価の上昇」で、12.3ポイント減少した。3位は、同率で「需要の停滞」と「消費者ニーズの変化」で「需要の停滞」は、2.1ポイント増加し、「消費者ニーズの停滞」は、6.0ポイント増加した。5位は、前回番外の「大型店・中型店の進出による競争の激化」で、9.8ポイント増加した。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 7-9	R6. 10-12	R7. 1-3	今期	来期見込
業 況	好 転	4.7	1.9	13.0	7.5	4.9	6.6	9.4
	不 変	64.2	65.7	62.9	64.5	56.9	63.2	65.1
	悪 化	31.1	32.4	24.1	28.0	38.2	30.2	25.5
	D・I	▲ 26.4	▲ 30.5	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 33.3	▲ 23.6	▲ 16.1
売上(収入)額	増 加	20.6	12.1	30.3	11.2	8.8	24.3	
	不 変	49.5	61.7	43.1	58.0	50.0	39.3	
	減 少	29.9	26.2	26.6	30.8	41.2	36.4	
	D・I	▲ 9.3	▲ 14.1	3.7	▲ 19.6	▲ 32.4	▲ 12.1	
資金繰り	好 転	1.9	3.9	5.6	3.8	2.0	3.8	
	不 変	75.0	74.7	72.9	78.9	70.0	75.0	
	悪 化	23.1	21.4	21.5	17.3	28.0	21.2	
	D・I	▲ 21.2	▲ 17.5	▲ 15.9	▲ 13.5	▲ 26.0	▲ 17.4	
仕入単価(材料等)	上 昇	69.5	53.3					
	不 変	28.6	44.8					
	低 下	1.9	1.9					
	D・I	67.6	51.4					
採算(経常利益)	好 転	5.6	1.9					
	不 変	60.8	66.3					
	悪 化	33.6	31.8					
	D・I	▲ 28.0	▲ 29.9					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

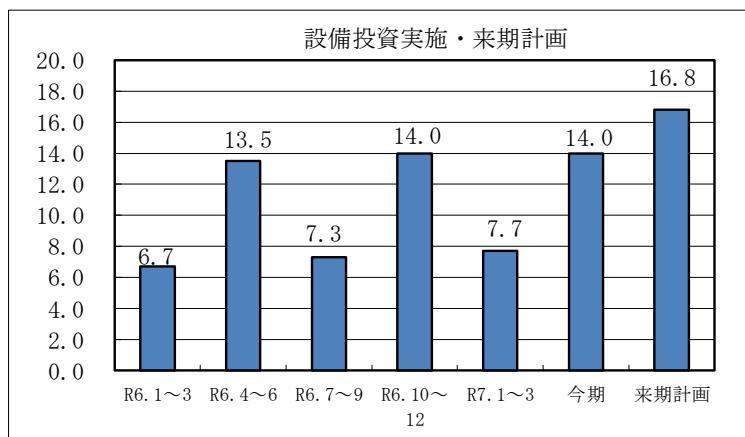
回答107事業所の内、15事業所(14.0%)が実施。

●車両・運搬具=5事業者、●サービス=4事業者、●OA機器=3事業者、●付帯施設=2事業者、●土地、建物、その他=各1事業者

【来期計画内容】

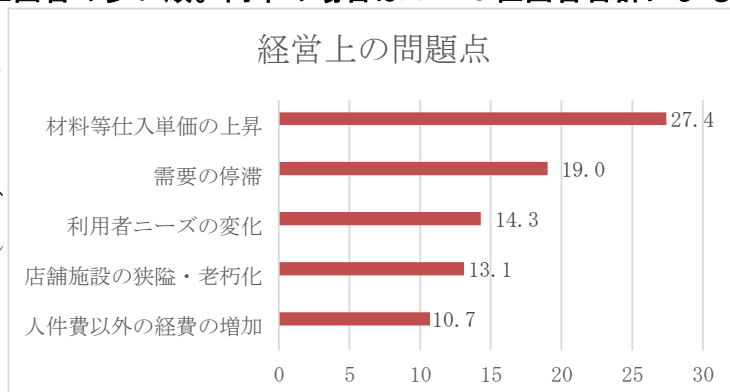
回答107事業所の内、18事業所(16.8%)が計画。

●車両・運搬具=6事業者、●サービス、その他=各4事業者、●OA機器=3事業者、●建物、付帯施設=各1事業者



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「材料等仕入単価の上昇」で3.7ポイント増加した。2位は前回同様「需要の停滞」で1.4ポイント減少した。3位は前回4位だった「利用者ニーズの変化」で1.8ポイント減少した。4位は前回5位だった「店舗施設の狭隘・老朽化」で3.4ポイント増加した。5位は前回3位だった「人件費以外の経費の増加」で7.6ポイントの減少している。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

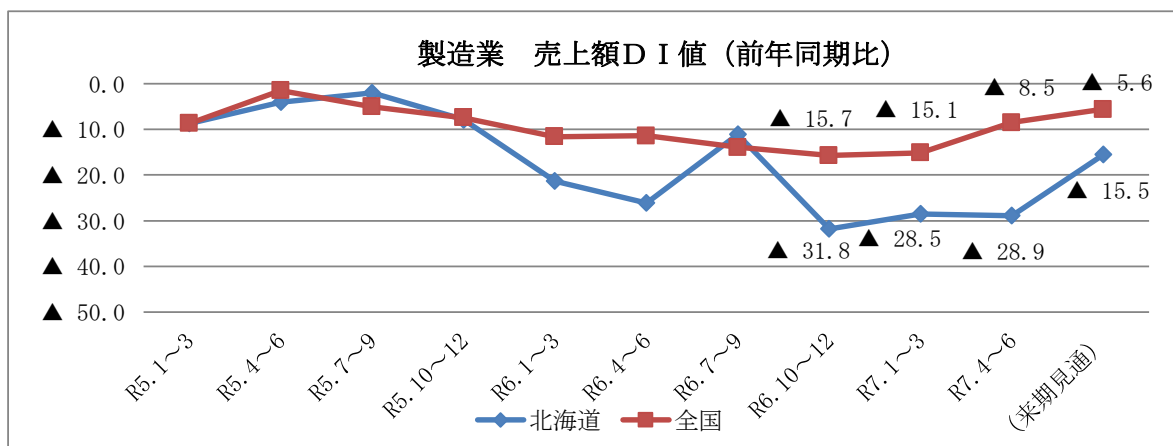
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

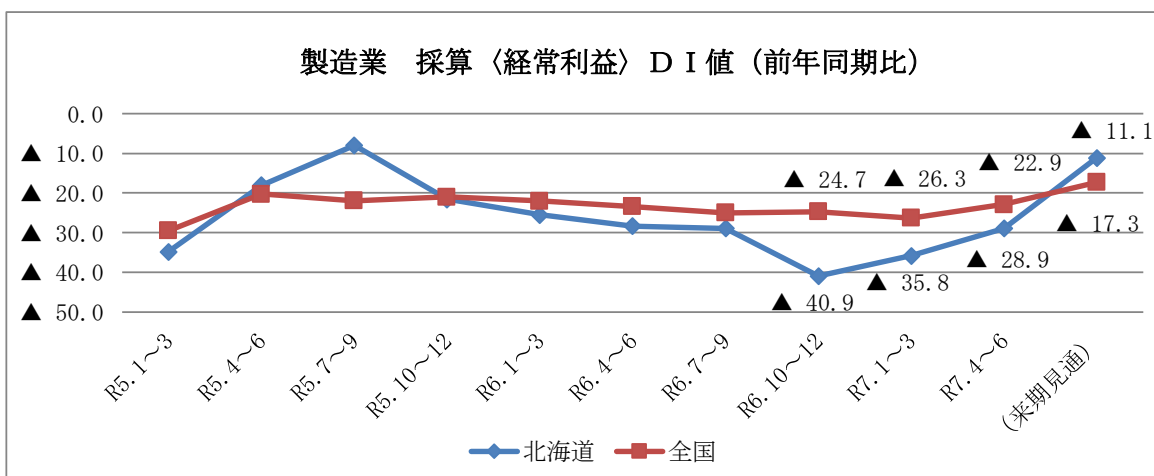
【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少
(見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

【全 国】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少
(見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

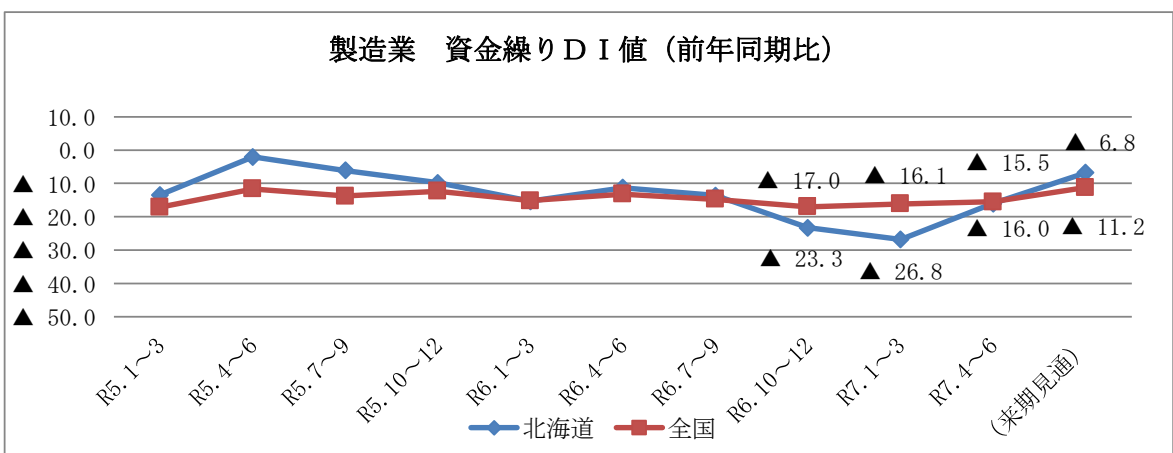
売上額



採 算



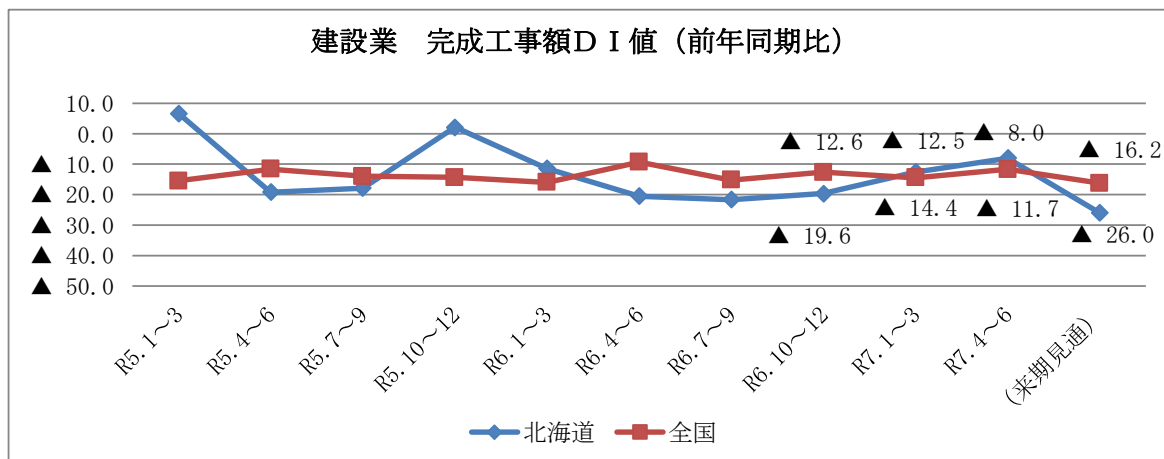
資金繰り



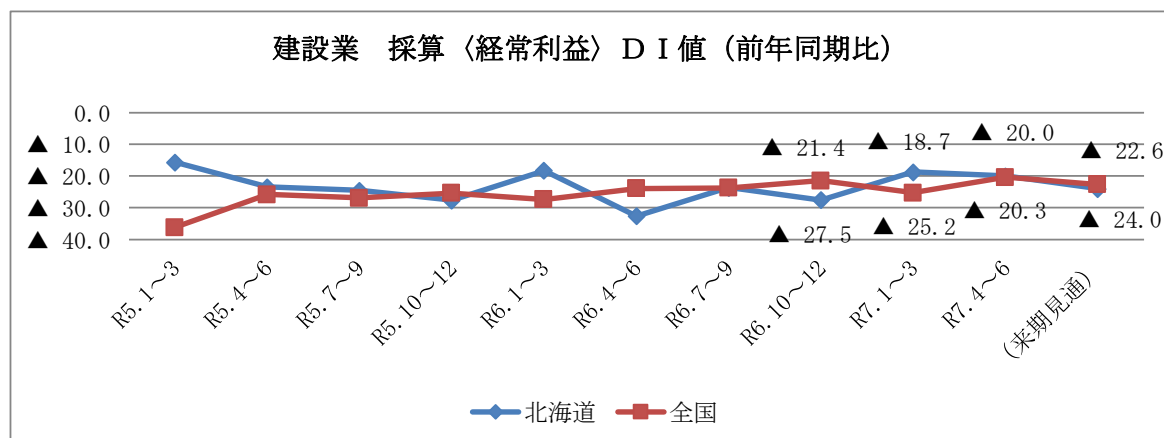
建設業

【北海道】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少
(見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少
【全 国】(今期)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

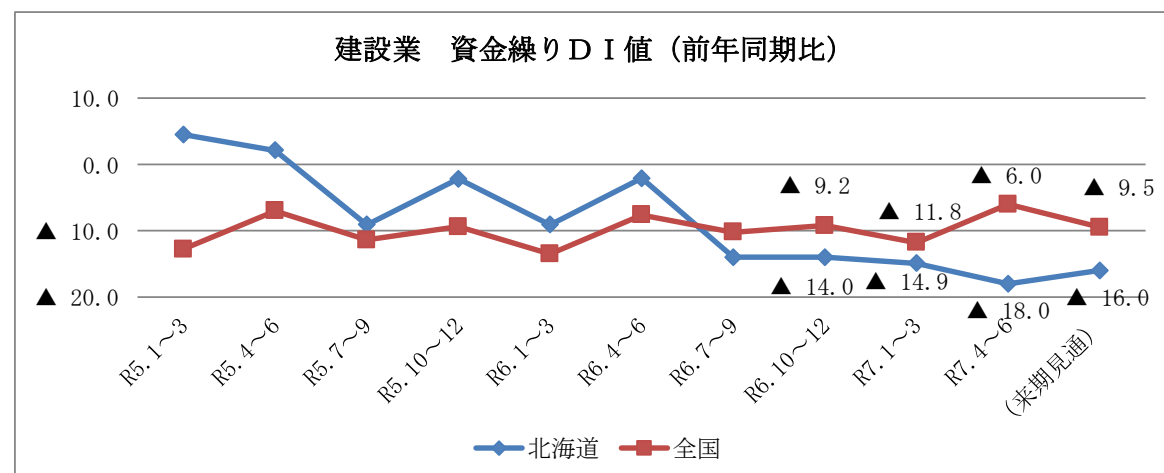
完成工事額



採 算



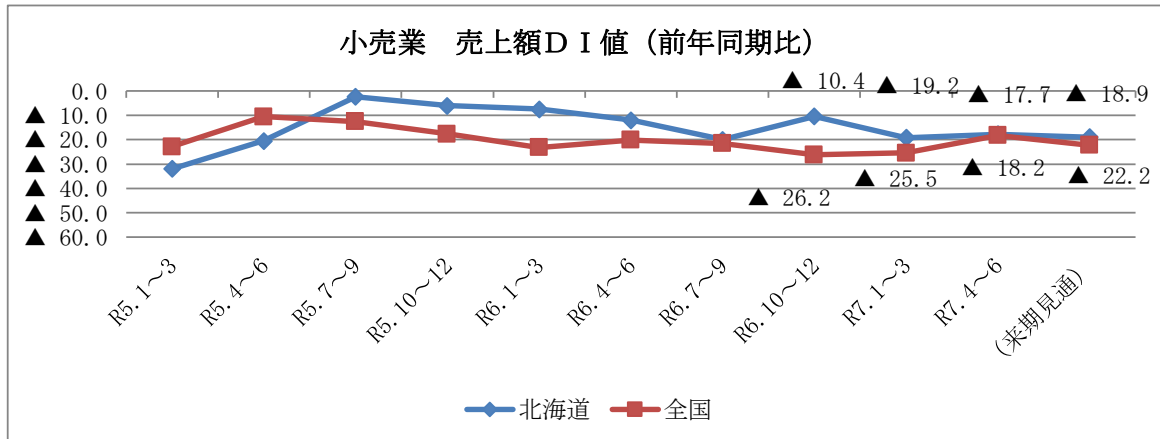
資金繰り



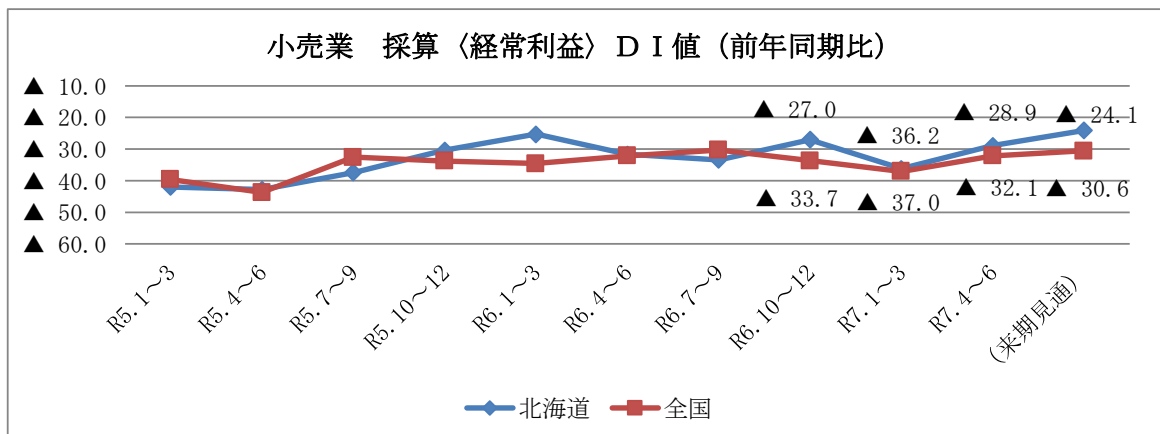
小売業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全 国】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

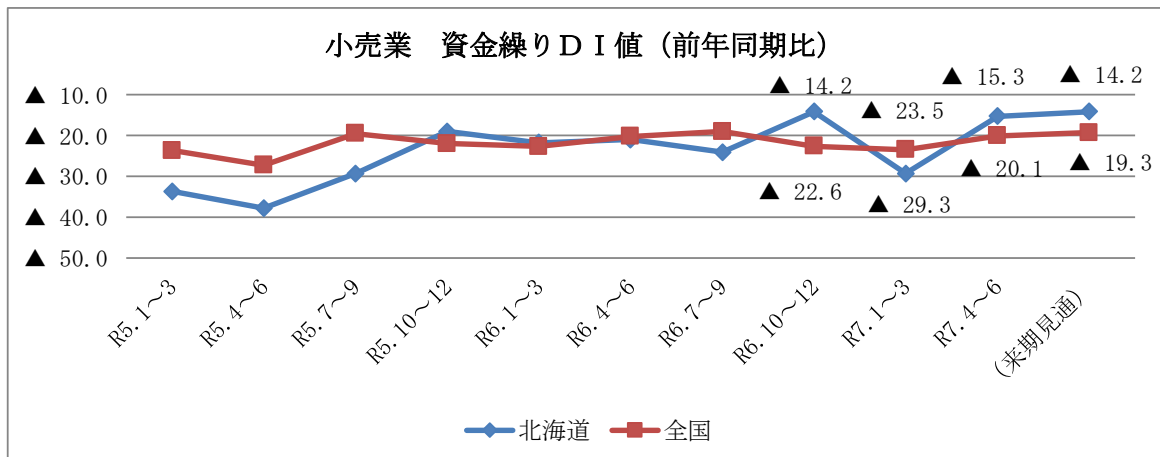
売上額



採算



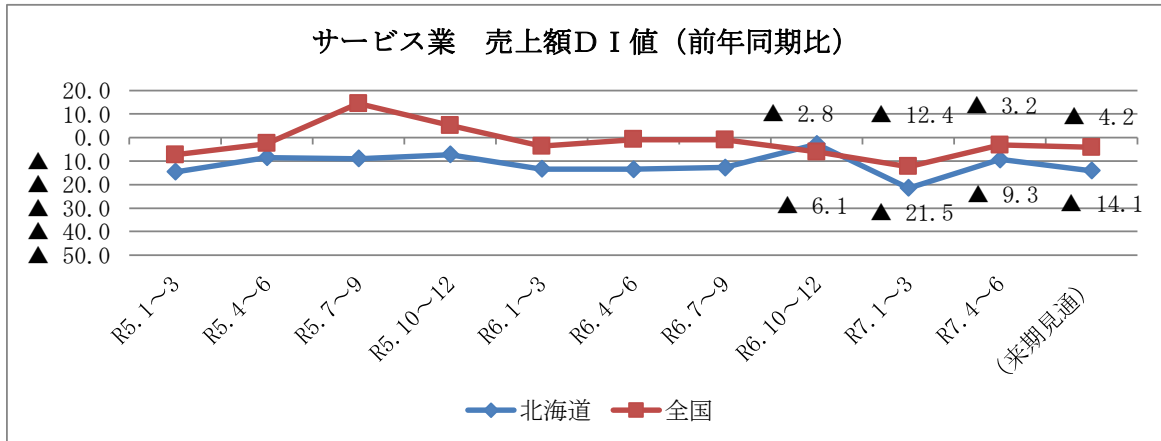
資金繰り



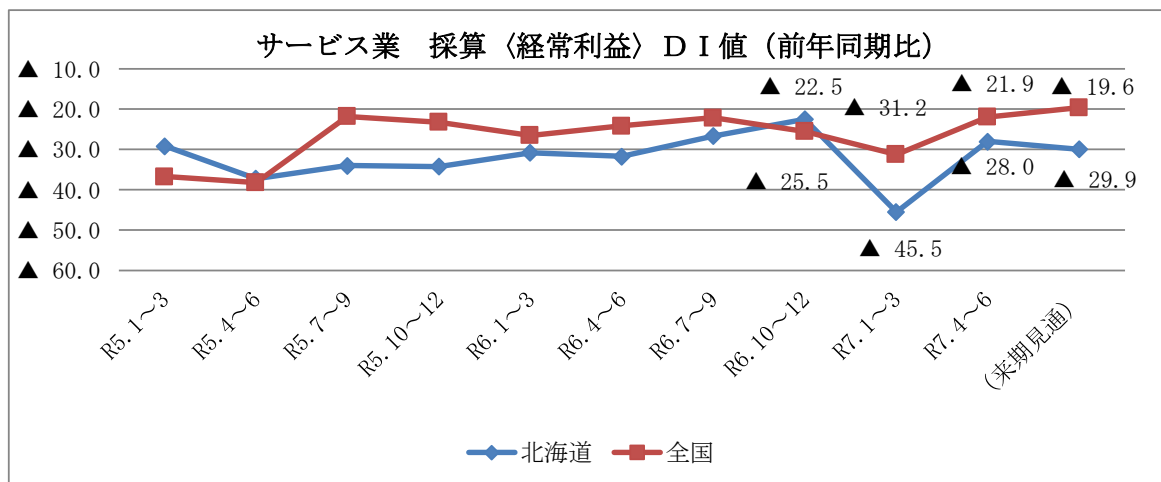
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全 国】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少

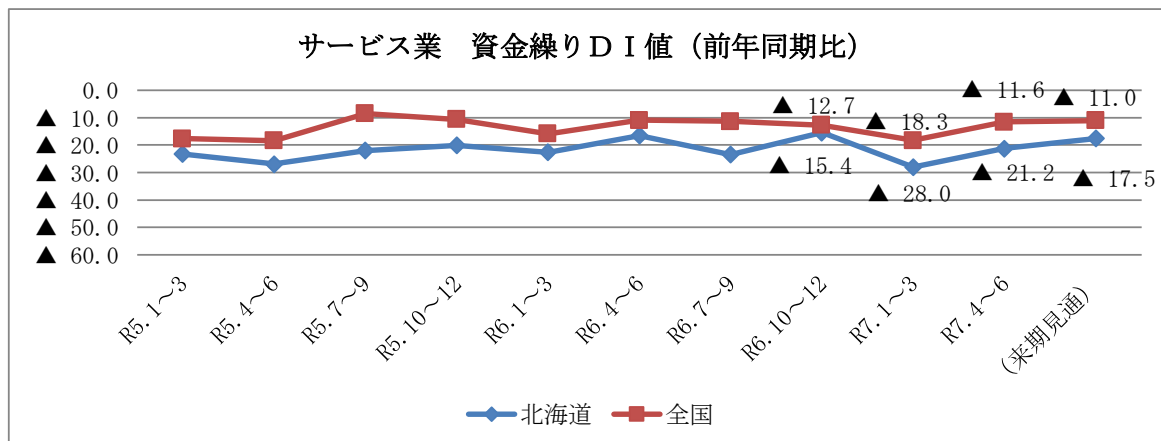
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業 種	内 容
製造業	○木製品を買うなら、お米を買いたいと思う人が増えているのでは？ ○多方面に展開しており、今後の数値向上に向けて行動中です。 ○原材料（カカオ、バター、小麦粉、バニラビーンズ）の高騰や入荷数量減が影響し、販売価格を上げて対応しているが間に合わないくらいに原材料や包装資材（石油製品）の上昇スピードが速い。 ○製造数量、売上共に昨年と大きな差はないと言えるが、生活に不安をもっていると話す客が多くなっている。 ○飲食店需要の低下。国内観光客の減少。 ○物価高と固定費の上昇により利益率を上げるのが困難な状況になってきている。 ○農業土木の公共工事も激減するだろう。経費等諸物価が高くなり、営業数量減＝利益も低下するだろう。 ○需要の停滞が始まっているので、新商品の開発や新分野への参入が必要であるが、なかなか時間を確保できない状況にある。
建設業	○当社は安定した受注を確保できているが、新築件数は年々減少傾向にある。業界全体では先行きの見通しがたっておらず、仕入原価の上昇も続くであろうと思う。一人親方などは淘汰されていくであろうと感じている。 ○従業員の確保難と材料費の上昇が悪化の要因と感じている。 ○引合こそ多いですが年間通しての受注案件は乏しい可能性があります。一方、材料費及び受注先単価の上昇が目立ち、利益は確保しにくい状態になりつつあります。工種の内製化を進め利益率を高める必要があります。 ○請負単価が上がったため売上額が増えた。 ○本年度は公共事業の発注が増加傾向にあり一定の受注量が見込まれています。しかしながら来期については今年度程の発注量は見込みにくい状況です。 ○諸物価高騰による利益率の圧迫など問題はありますが、当社としても工事の期間を可能な限り減らしつつ、質を落とさないよう努力し、従業員にも還元していきたいと考える。 ○公共事業の受注に際し、価格競争激化、受注価格のダンピング（最低制限価格の見直し）に加えて、工事の大型化が目立ち、下位等級への工事が減少傾向にあるのではないかと。 ○材料価格の上昇と人手不足は不変であり、インフラ関税で将来的な見込みも不透明である。
小売業	○家族に病人（店主）がおり、何もかも手つかずになっています。 ○人口減少、物価高騰、客数も少なくなっています。売り上げも伸びず、これから夏に向かって電気代を維持していくのも大変です。 ○人口減少により存続の危機感があります。 ○町内工事需要の増加に伴う売上・客数の上乘せ。 ○飲食店への発送、WEBショップが好調で売上自体は悪くないが、来店される日本人観光客の減少が懸念される。 ○去年より売上が減少傾向にあるが原因が定かでない。 ○ふるさと納税の返品による売上が増加した。 ○令和7年4月より遠別町による省エネ家電購入支援が始まったことにより、今後の需要が見込まれる。 ○物価高騰により購買力の低下が大きく影響している。天候不順（寒い日が多い）ことで今期の売上高は苦戦しそうだ。 ○単月の売上には波があり、経費の増加で利益圧迫が続く。経費を抑えるのにも限界があるため、電気の契約業者の変更や配達頻度を減らすなど根本的な対策を検討している。 ○多くの食材が値上がりしており嗜好品である洋菓子の客単価が下がっているように感じる。コロナ後から少しずつ売上が下がっている状況です。

サービス業

○顧客の高齢化・品物の値上がり・経営者の高齢化。
 ○固定費の支出減が出来ず、収入を増やすのが難しく、固定客を大切に、新規のお客様の増加を目指し売上増加を見込まないといけない。
 ○仕入が高いので出前をやめたり早く店を閉めて経費削減している。値上げすれば客は来なくなる。
 ○エリア内の競合店の増加に伴い、インターネット検索でお店を探す方が増え、一昔前よりも客が散らばっている感じがする。
 ○原材料の値上げが止まらない。そのため多少だが販売価格に転嫁している。新規のお客様の入込が少ない。ニセコエリアは高いというイメージがあり、特に夏期間は敬遠されている。（SNS、マスコミの影響力が大きい）
 ○教育旅行の順調を一般客が低迷し打ち消している。
 ○人材不足とともに、人件費の増額、社会保険料の負担額増とあらゆる物価の上昇の中で、給与を上げると国の方針に振り回されている。
 ○入院による治療によって一時休業しており、売上が大きく減少した。
 ○代表者が死亡したことにより、社内の組織及び統制、役割分担に難をきたし通常の営業状態をとることができなかった。代表を務めるものの責任として事業承継問題は視野にいれておかなければならないと痛感した。
 ○店舗や付帯設備の老朽化が目立つ。設備更新等を行う際には、各種補助金を活用しながら、導入を検討していきたい。
 ○総会等のシーズンで利用客が増えてきていると感じるが、個人の来店客が少ない状況であり、諸物価高騰が利益を圧迫し、非常に厳しい状況が続いている。
 ○事業の多角化が進み、キャッシュフローも改善している。一方で、従業員の確保が難しい状況が続いている。
 ○業況は良くも悪くもなっていないが、これからの米の価格や従業員（アルバイト）の確保が難しくなっている。今後、夏のイベント等の運営に悪影響をもたらさないか不安である。
 ○得意先が次々と廃業しているため、顧客数の減少が始まっている。若い経営者の投資に対する考え方は現状維持の経営志向が強いため、設備導入より設備修理が多くなっている。
 ○物価高の影響からなのか、来店数が若干減少し、特に若者の利用が減ってきています。売上は維持していますが、景気次第ではどんどん厳しくなる可能性があります。
 ○単価の上昇（仕入）、客離れの可能性による料金の上昇難、ギリギリでやっているのに賃上げ、雇用者に厳しい。
 ○新規事業の宿は、システム予約にトラベル等はあるながらも売上は順調である。仕入率、人件費共に増加しているのは変わらず、原価率の再見直しも必要と考える。